ダンボール生ごみ堆肥化セット

取扱説明書

＊生ごみから堆肥をつくりませんか！＊

― 燃やせるごみを減らせて、お花や野菜作りに最適な堆肥ができます ―

【ダンボール生ごみ堆肥化セット】

①ピートくん（20㍑）1袋：「ピートモス」と「もみがらくんたん」を6：4に混ぜたもの
②ダンピー君（ﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙ箱）1枚：組立が必要（作り方は2Pをご覧ください。）

ごみ減量実践活動ネットワーク（以下略称：スリムネット）は、０５年３月に市民・行政・事業者による「ごみ」を減らす実践的な取り組みの提案と普及を目指し設立しました。
スリムネットの今年度事業として、市民へ『ダンボール箱生ごみ堆肥化セット』を取組みやすい価格で普及し、札幌市で出るごみの３分の１を占める「生ごみ」の減量に取り組みます。みなさんのご協力をよろしくお願い致します。

スリムネット　生ごみ減量プロジェクト

さぁ！やってみよう
ダンボールを使って生ごみの堆肥化

セット以外に用意するもの

●かくはん用具：へら・しゃもじ・シャベルなど
●温度計（棒状）：生ごみが分解する時の温度変化を確認する。（１００℃用）
●はかり－投入する生ごみを計量すると、量の変化や適量の目安となる。
●箱をのせるための台：５㎝角位の木片やラップの芯の輪切り等を４個（５～７㎝）

容器の作り方ダンピー君を組立てる

【　本　体　】
①底の部分をガムテープ（紙）ですき間のないようにとめる。
②上ぶたを立ち上げてガムテープ（紙）でとめる。

【ふた・中敷き】
③ふたと中敷きの４つ角をテープでとめる。
④中敷きを本体の底に押し込み、テープでとめる。

＊ 完 成 品 ＊

①底をとめる

②上ぶたを立上げとめる

③ふたと中敷きを作る

④中敷きを本体の底に押込む

＊注意：布テープは湿気ではがれやすくなります。

作　り　方

【箱の中に基材を入れる】
・組立てたダンピー君（ダンボール箱）の中にピートくん（基材）を入れる

【 置き場所、置き方】
・１５℃以上の屋内（夏は雨など水に濡れない場所であれば、外でも大丈夫。）
・箱は、壁や床面から５～７㎝程度の隙間を空け通気を保つ。
・特に、箱の下に５㎝角位の木片やラップの芯の輪切り等（4 個）を置いた上に乗せる。

ダンボール箱の下に足をつけて置く！
生ごみが分解する際、熱が発生しますので床が変色したり、また水分の蒸発により箱が湿り壊れやすくなります。

【 生ごみの入れ方】
・　生ごみは水を切らずに入れ、しっかりとかくはんする。
　（初めは基材が乾いているので、コップ 1～2 杯の水か温水を足す）
・大きい生ごみは小さく切って入れると、かき混ぜやすいし、分解が早い。
・生ごみは、なるべく調理後・食後等、新しいうちに入れた方が良い。（腐ったものは入れない）
・１日平均５００～６００ｇ位は処理できる。一度に多く入れた時には、翌日は入れないなどの工夫をする。

【毎日の管理】
・毎日、または「生ごみ」を入れる度に、箱の中をかき混ぜ空気を取り入れる。
・温度計を中心部に浅く差し、温度の変化で微生物の働きを知るようにする。
・必ず箱にフタをする。（防虫・防臭・保温の効果がある。）

【 使用中の注意】

・温度：１～２週間で３０度程度になるが、温度は（入れる生ごみによって）上下する。
：温度が上がっている時は分解（微生物の活動）が進んでいる証拠。
：米ぬか、古くなったきな粉、天かすや廃食用油、砂糖、甘い菓子など少し入れると温度が上がりやすい。（入れすぎると臭いがでる）

・水分：いつも内部がしっとりした湿り気を保っている状態がよく、逆にベトベト状態は水分が多すぎるので、通気が悪く腐敗の原因になる。その場合は、乾いたピートモスや枯葉を少し入れると水分調整ができる。

・臭気：無臭ではなく、山土や腐葉土、軽いカビのような臭いは発生する。
特に、魚のアラやイカのはらわた等を沢山入れると、アンモニア臭がします。腐敗臭がする時は、乾いたピートモスやくん炭を少し入れ、よくかき混ぜると良い。

・虫　：温度が上がらない時、小ばえのような飛び出す虫やダニが発生しがちである。
よくかき混ぜて温度を上げることで、虫（虫の卵）を死なせ、発生しにくくなる。

カビやダニが発生する可能性があるので、アレルギーをもっている人は室内での堆肥化は、避けたほうが良い。

いつまでできるの？

・生ごみが、一日平均５００ｇ位だとすると、概ね３ヶ月が目安である（生ごみ４０kg程が処理できる）。
・基材がダマ（かたまりが多くなり、サラサラでない状態）になってきたら終了する。
・終了した基材（堆肥）は、生ごみの投入をやめ、時々混ぜるだけ（10 日間位）、その後、雨にぬれない所に置き、２～３ヶ月寝かせてから、畑に入れる。

■投入してはいけない物■　なかなか分解しなかったり、分解するが時間がかかるもの・・・・

・多量の塩蔵品、塩鮭や塩辛、ぬかづけの床、古漬けのタクアンや大根葉など
・トウキビの芯、梅干の種など
・鶏がらや豚骨　　・トウキビやタマネギの外皮
・スイカやメロンの皮（水分が多いので、小さく切って少し乾かして入れると良い）
・防腐剤が塗布してあるレモンなど柑橘類の皮・シジミやアサリの貝殻、エビの頭など

■長つづきの秘訣■

・変化を楽しもう（温度や、投入物との関係で分解状態が変わる
・家族で協力し合おう（共通の話題が増える）
・仲間を作ろう（情報交換、勉強会）
・ごみの中身がわかる（ムダを知り、節約や改善のきっかけになる）
・ごみ扱いにしない（資源物、防腐敗、防虫、防臭）　・使う楽しみ（安全な野菜や花つくり）

できた堆肥の使い方

・できた堆肥の使い方は、植物の根を直接堆肥に触れないなど、他の堆肥と同じ。
・生ごみ堆肥は、土の中の肥料成分や水分を保持し、通気を良くし作物の成育に好ましい土壌状態を作り出す働きをする。
・栽培物に合わせ、不足する堆肥成分は他のもので補充する。

《ダンボール生ごみ堆肥化セット》について

■生ごみ堆肥化容器『ダンピー君』とは■

この「ダンピー君」は、精神障がい者の施設共同作業所ヨベルと仲間たちで製作しています。この売上は、ヨベルに通う精神障がいを持つ方たちの収入となります。ヨベルは、環境にやさしい生ごみダンボールたい肥づくりの普及活動を応援しています。様々な人達が支えあい、協力しあい、誰にとっても住みよい地域になることをうれしく思い、そのような活動に参加していきたいと考えています。

何かお気づきの点がありましたら、下記までご連絡下さい。

【連絡】共同作業所　ヨベル　白石区本郷通４丁目北 3-24　℡/fax　011-865-2818　担当　常盤野

≪ダンピーくんを作っているヨベルの仲間たち≫

共同作業所ホワイトストーン
白石区北郷２条 10-1-11　℡/fax　873-3002/873-3007

■基材：土壌改良剤『ピートくん』とは■

北海道産のピートモスともみがらくん炭を６：４で混ぜ合わせてあるものです。
『ピートモス』は、草木やコケ類が長い間たい積したもので、主体は水ごけです。日本ではサロベツ原野や石狩川流域など北海道のみで産出されています。特徴として保水性がよく、微生物の住み家となる隙間が多いことです。
『もみがらくん炭』は、もみ殻を炭にしたもので、北海道の農業廃棄物として大量に発生しています。ピートモスの酸性を弱め、臭気も弱めます。また、隙間が多く微生物の住み家になります。

＊　基材のみを購入する場合　＊

ピートモスともみがらくん炭は、土壌改良剤として園芸店やガーデニング用品を扱っているスーパーやホームセンター等で販売されています。ご自分で６対４の割合で調合すると、ピートくんのように使えます。
※また、調合された「ピートくん」（２５㍑入）を販売しているお店もあります。

【生ごみ堆肥についてのご相談は･･･】

●札幌市リサイクルプラザ宮の沢　（℡．671-4153）
西）宮の沢 1-1　ちえりあ１階　（10：00～18：00　月曜休館（祝日の場合は翌日）

●循環ネットワーク北海道　（℡．709-5751）
北）北７条西１丁目 1-11　ﾊﾞｰﾑﾊｲﾂ札幌 201　（10:00～15:00　月～金）

●札幌友の会　（℡．612-5935）
中）北３条西 23 丁目 1-15　（ 10:00～16:00　月、火、水、金）